

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



銅造菩薩形坐像

(『唐津市の文化財』より)

## 銅造観音菩薩坐像

～唐津市西寺町 長得寺～

### ■銅造観音菩薩坐像（どうそうかんのんぼさつざそう）

本市西寺町の長得寺所蔵の銅像観音菩薩坐像は像高75.5cm、14世紀前半・高麗時代の作品である。

概ね全体を土製の鋳型である土型で一鋳したものと考えられる。

頭頂は菩薩が結う高結髪が欠損し、そのために径約5センチの穴が残っている状況から別鋳の可能性が高いと思われます。

左手第2指の先は補修の後が残っている。左肩背面には若干の鋳崩れがある。

像の体内背面には中型の土が残り、白色がかった褐色を呈している。

地髪部はタガネで毛筋を表現している。長く大きめな耳朵、ふくよかな頬の肉付き、厚みのある膝や太めの指先の表現、双肩に垂れた「垂髪」（ようはつ）、胸から両膝にかけての「瓔珞」（ようらく）、腕輪である「腕釧」（わんせん）、裾の括り紐の真横の結び目、膝前の衣文の繁雑な表現など装飾過多な造形感覚をしめしている。

本像は高麗時代の仏像様式の中期より末期への変遷への基準作とされる、対馬豊玉町の観音寺の銅像観音菩薩坐像に比較できる。この豊玉町観音寺像は在銘像の少ない高麗仏のなかで製作年代の確かな像である。これに酷似する長得寺所蔵の本像も14世紀前半を示すものとして貴重である。

平成9年5月9日 県重要文化財（彫刻）指定

唐津市西寺町 長得寺

◎引用・参考文献（出典）

◆『唐津市の文化財』  
（唐津市教育委員会）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)